

橋下氏発言は「侮辱」

ロシア外務省が批判

ロシア外務省は23日、日本維新の会の橋下徹共同代表の従軍慰安婦を巡る一連の発言について「第2次大戦で日本の軍国主義と戦ったすべての人に対する侮辱」として批判する考えを公式サイトに掲載した。ロシア当局が橋下氏の発言について公式の立場を示すのは初めて。

ロシア外務省は発言の背景に「戦後の現実を拒否し、第2次大戦について偏

見に満ちた評価を押しつけようとする政治家たちの試み」があると指摘した。

ロシア外務省は北方領土の占領を「第2次大戦の（正当な）結果」と主張しており、日本による返還要求を橋下氏の主張と同じ歴史の見直しとして牽制する意図があるとみられる。

ロシア外務省の見解はロシアの通信社からの質問への回答という形式で掲載された。（モスクワ＝駒木明義）